

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371500774
事業所名	サポートハウスごらく

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	地域との関わりが徐々に平常に戻りつつあり、利用者の外出機会も増している。昨年までは利用者が関わらなかった「お月見どろぼう」(伝統的な地域行事)も、今年は通常通り、ホームにやってくる子どもたちに利用者がお菓子を渡す予定である。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	ホーム内にコロナ感染が広がった昨年9月は書面による運営推進会議の開催となったが、それ以降は全て対面(通常開催)で行われた。半数の3回は、同法人の姉妹ホーム(サポートハウスおおばり)との共催の形で行われている。会議の中で、目標達成計画の進捗評価も行われている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	ホームにコロナ感染が蔓延した際、行政(区)から物資の援助を受けた。特に、使い捨ての防護服は大量に供与を受け、ホームに備蓄がなかっただけに感染拡大の防止に役立った。管理者がキャラバンメイトの資格を取得し、ホーム内で認知症サポーター養成講座を実施している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	検温や手指消毒は行うものの、家族面会はほぼ平常の状態に戻っており、ホーム内の共有空間や居室に立ち入ることも可能である。その際に、職員が家族の意見や要望を聞き取っている。足の遠のいている家族には、電話による聞き取りが行われており、介護計画の見直しの際に活用されている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【備考欄】

ホーム内にコロナ感染が広がった昨年9月は書面による運営推進会議の開催となったが、それ以降は全て対面(通常開催)で行われた。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況(外部評価)が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	3. 運営推進会議を活かした取組み (例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的(年2回以上)に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的(年2回以上)に発行されている。

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度
総合評価	×	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○	◎
実施年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
総合評価	○	◎	○	◎							